

一級建築士 総合学科本科生「合格への道」

令和6年（2024年）合格目標 TAC建築士講座

1. 講義をすべて聴いて、本試験日までに問題集（過去11～12年分※）の9割を正解できるようにすれば、合格できる！

※出題傾向を踏まえ、法規、構造は11年分、計画、環境、施工は12年分に加えて、実例建築物、計算・図表問題、構造力学等、重要な問題は厳選して掲載しています。



2. 結局どれだけ真剣に「今年絶対に合格する！」と覚悟を決めたか、で決まる。

- ・真剣に考えれば、問題集で一度間違えたら二度と間違えないように、まとめノートを作るとか、法令集の線引きの工夫をするとか、自ずから行動が変わる。
- ・設計・工事監理は建築士の独占業務ですから、建築士でなければ、あなたは「タダのアシスタント」です。やっている業務は「設計」ではなく「設計補助」です。

3. 合格できるかどうかは、あなた次第！

- ・コンテンツは最良なものを提供します。勉強するかどうかは、あなた次第。
- ・自宅等でしっかり問題集を解かないと合格はできません。

4. 科目ごとの基準点・目標点

★ポイントは、「法規と構造で最低45点・目標50点を取る」こと！

科目	出題数	科目基準点	合格最低条件		目標	
			得点	得点率	得点	得点率
計画	20	11	14	70%	16	80%
環境	20	11	14	70%	16	80%
法規	30	16	24	80%	26	87%
構造	30	16	21	70%	24	80%
施工	25	13	17	68%	18	72%
合計	125	67	90	72%	100	80%

1、2年前はほとんど出ない

1、2年前も出る

暗記系科目
新規問題多い

ただし、
合否の差
が付くのは
過去問です。

※近年の合格基準点の補正

(R1_97点) (R2_88点_環境10点) (R3_87点_計画10点) (R4_91点) (R5_88点)

5. 講義への 100%出席

- ・学習のスタートは講義から。**予習は不要**です。講義後に講義範囲の「**項目別問題集**」の実施を徹底！ **毎回の講義に必ず「項目別問題集」を持参。**
- ・欠席した場合は Web 講義を視聴する。原則、翌水曜日 0 時から視聴可能。**講義録、確認テストもダウンロード可能。**なお、教育訓練給付制度上、Web 講義の視聴は、出席扱いにはなりません。
- ・1 日（講義 2 回分）の講義料はいくら？
総合学科本科生 44 万円／37 週＝11,892 円／週
- ・教室講座では、5 分前着席の厳守。
- ・教室講座では、中間テスト、公開模試等は、極力教室で受けること。「自信がない」「まだその段階に達していない」等を理由に欠席している場合ではない。

6. 学習の進め方

1. **講義**を受講する。
2. 講義受講後、その週のうちに講義範囲について「**項目別問題集**」を 3 回解く。
3. 各科目の講義が終わったあと、次の科目の講義期間中に、「**年度別問題集**」を解く。年度別問題集は年明けから各科目の初回の 1 週間前に配付。

これは、**科目ごとに学習を進める T A C**ならではの**最強の学習の進め方**です。

「項目別問題集」で効率よく、選択肢ごとに理解を深め、「年度別問題集」で本試験での点数・実力の把握、忘れ防止、むらのない学習を図ります。

「忘れ防止対策」「復習の徹底」

	講義	確認テスト	年度別問題集			
1/7	法規 1・2	なし				
1/14	3・4	法規 1・2				
1/21	5・6	3・4				
1/28	7・8	5・6				
2/4	9・10	7・8				
2/11	11・12	9・10				
2/18	構造 1・2	法規中間テ				
2/25	3・4	構造 1・2	法R5			
3/3	5・6	3・4	法R4			
3/10	7・8	5・6	法R3			
3/17	9・10	7・8	法R2			
3/24	11・12	9・10	法R1			
3/31	13・計画 1	11・12	法H30			
4/7	計画 2・3	構造中間テ	法H29			
4/14	4・5	計画 2・3		構R5		
4/21	環境 1・2	4・5		構R4		
4/28	3・4	環境 1・2		構R3		
5/5	5・6	3・4	※法規特訓		計R3	
5/12	7・8	5・6		構R2		
5/18	施工 1・2	計・環中間テ			計R2	
5/26	3・4	施工 1・2				環R3
6/2	5・6	3・4			計R1	
6/9	7・8	5・6				環R2

※日程は新宿校の例

- ・6月中旬に本講義が終わったら、その後は本試験まで「思い出すための期間」になります。そこに公開模試、直前まとめ講義、直前テストが加われば、「鬼に金棒」です。

7. テストの復習

- ・確認テストや各種テストで間違えた問題の復習は、出来ない問題を出来るようにするために効率的。テストの受けっぱなしでは意味がない。復習をしっかりと行うこと。
- ・特に確認テストは各回 50 肢程度を厳選しているので、**B5 ファイルに整理**して折に触れて復習すると効果的。トータルで厚さ 10 cm 程度になります。
- ・テストを実施し、復習した後、**1 か月後にもう一度解きなおす**と効果的。あとから**優先的、重点的に見直すべき問題**（間違えた設問、分からなかった設問）に**チェック**をしておくこと。
- ・Web School の講義録から綺麗な問題をダウンロードすることができます。

8. 6月からの直前期までに、テキストを1回は通して読む。

- ・問題集（項目別・年度別）で学習した内容が「点」だとすると、点が線に、線が面になり、体系、全体像が分かる。
- ・時期的には科目の講義が終わったときが良い。
- ・テキストの内容を 100% 覚えようとする必要はない。不明な点には「？」を付ける。

9. 知識を整理するための「まとめノート」を作る。

- ・作るタイミングは、項目別問題集を 3 回解いた頃が有効。
- ・「覚えられないもの」「なんか逆な気がするもの」などの項目でまとめるのも有効。
- ・後で自分が何を書いたのか分からなくなった時のために、テキスト页数や問題集の出題年度・番号・肢などをメモしておくといい。（テ p 121、H30182、確 2-13 など）

Date _____	
総長比入 { 円角変形角 たわみ	木 $\frac{1}{150}$ 以下 (構造耐力上主要な部分) 鋼 梁(柱以外) $\frac{1}{250}$ 以下 柱 $\frac{1}{120}$ 以下 (構造耐力上主要な部分の 変形によって建築物に著しい 損傷を生じるおそれがある場合) ALC スライド構法 カバープレート工法

- ① 理屈で納得する。分かるまで調べる。
- ② 分類・比較・関連付けする。
- ③ ビジュアル化する。
- ④ 語呂合わせで覚える。
- ⑤ テキストや解説を見たあとに、すぐにいったん目を閉じて頭の中で繰り返す。
- ⑥ 手を動かして書いて覚える。
- ⑦ 定期的に反復練習する。
- ⑧ 問題集を3回解いた頃に、設問肢ごとに覚えていないものにフセンを付け、覚えたら外す。
- ⑨ まとめノート等を使って、思い出せるようにして忘れる。

12. 問題集を丸暗記しようとしないこと。理解すること。

- ・丸暗記で7回も8回もやってもダメ！
- ・問題の○×を考えるだけでなく、解説を熟読すること。
- ・○×が分かるだけではダメ！ どこが間違いで、どのように直したら正しくなるかを人に説明できる程度まで理解すること。

13. 出来ない問題を出来るようにすることをいつも意識する

- (1) 肢ごとに理解度を明確にして、出来ない問題を絞り込んでいく学習をする。
- (2) 解説を読み、テキストで調べても**意味がわからないときは**、
 - ①ネットで調べる
 - ②フセンを立てたり、「？」マークを付けておく。長い間立ち止まらない。
 - ③講師に質問する！
- (3) **数値が覚えられないとき、何かと混乱しているときは**、
 - 表にして整理する。語呂合わせで覚える。まとめノートを作る。
 - 直前期に覚えるべきものを早い段階から整理する。
「思い出せるようにして忘れる」
 - あいまいなもの、モヤモヤしたものを正確に覚えるために自分で整理をする努力を決して惜しまないこと。教材を眺めているだけでは効果が出にくい。
 - 整理しないと、ずっとあいまい、モヤモヤなまま。
 - 合否を分ける問題は、「正確に覚えるのが難しい過去問」
 - **TAC建築士講師室ブログ**
「井澤式 建築士試験 比較暗記法・実例暗記法」の活用
<http://kentikushi-blog.tac-school.co.jp/>
http://kentikushi-blog.tac-school.co.jp/archives/cat_1300293.html
http://kentikushi-blog.tac-school.co.jp/archives/cat_1303075.html
「合否を分ける問題の宝の山！」



14. 二級建築士試験との違い

- ・二級建築士試験は「丸暗記」でも合格できるが、一級は「理解」が必要。
- ・二級建築士試験は「電車学習」でも合格できるが、一級は「自宅学習」が必要。
- ・二級建築士試験と同じ学習量で合格できるとは思わないこと！

15. 合格したいのならば、勉強時間を確保すること

- ・勉強時間の目安は、平日2時間、週末6時間＋隙間時間の活用
- ・勉強する習慣を付けられるかが勝負！
- ・勉強し始めれば、やる気は出てくる！やる気が出る前に、とにかく勉強し始める！
- ・10分あれば何かできる！
- ・講義後の自習室の活用。
- ・講義中の疑問点は講義後に解決する。解決しなければ質問する。家に持ち帰らない。
- ・家では怠けてしまうのであれば、**講義後教室に残ってやる**。TAC自習室でやる。会社でやる。ファミレスでやる。覚悟を決めて！
- ・電車の中も有効活用。いすに座ると眠くなるなら、座らない！
- ・勉強時間が確保できないなら、昼休みも勉強する！
- ・お酒を飲むと眠くなるから、我慢するとか。
- ・眠くなったら立って声に出しながら勉強するとか。ガムを噛むとか。
- ・困難を克服して「武勇伝」を作る！合格体験記を作る！
- ・試験勉強をきっかけに生活習慣や性格等を改善できたりしたら、本当に有意義なのではないかと思います。

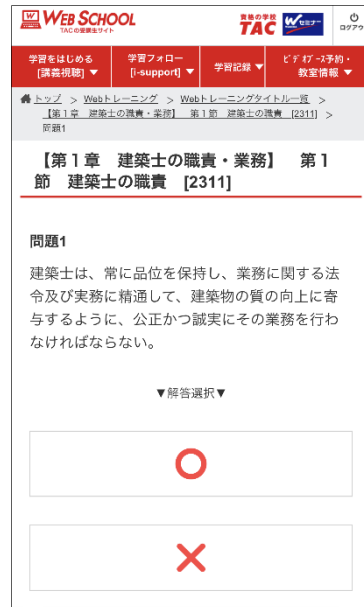
16. 教材の配付

・TAC利用ガイド（全講座共通）	申込時に配付
・受講ガイド（建築士講座専用）	TAC Web School のマイページ 学習フォロー [i-support] ⇒教材
・力学基礎講義テキスト・力学基本問題集	映像講義の講義録として添付
・構造 テキスト・項目別問題集	構造力学マスター1回に配付
・法令集 ・法規 テキスト・項目別問題集	11/10（金）から配付開始 （新宿校では構造力学マスター7回）
・計画・環境・施工 テキスト・項目別問題集 ・法規 年度別問題集	法規本講義1回に配付
・構造・計画・環境・施工 年度別問題集	各講義1回の1週間前に配付

17. モバイル問題集「Webトレーニング」

・TAC Web School のマイページ

学習フォロー [i-support] ⇒ 教材 ⇒ Webトレーニング



Webトレーニング画面

- ・操作マニュアル等の詳細は、マイページ左下の「講座からのお知らせ」▶一覧を見る」を参照。
- ・法規を除く4科目について2023年度版を先行提供しています。
- ・2024年度版は科目ごとに順次提供していきます。
- ・家でじっくり問題集を解くときには「紙の問題集」を使い、電車の中で隙間時間を使うときには「Webトレーニング」を使うのが良いと思います。

18. 受験経験者の方への学習上のアドバイス

- ・受験経験者の方が講義前に苦手科目の学習を進めておくことは当然有効です。
- ・初受験の方は、予習は一切不要です。復習に徹してください。

① 計画の実例建築物の出題について

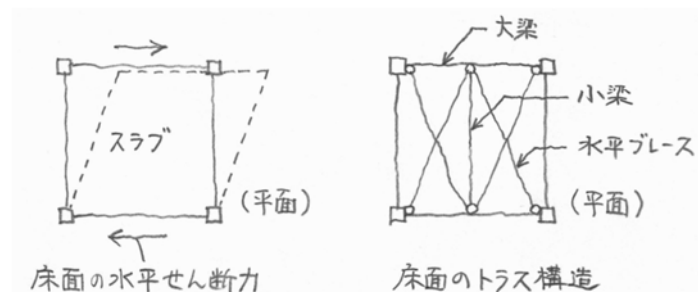
- ・令和3年に実例建築物について手も足も出ない新規問題が数多く出題されましたが、それは特殊です。間違っても過去問を軽視してはいけません。
- ・令和5年は、建築史1問、都市計画の著作物1問、住宅1問のみの出題でした。令和3年の8問と比較すると大違いです。その分、従来からの標準的な建築計画理論からの出題が増えました。あくまで予想ですが、令和4年が5問で易しかったことも踏まえると、令和3年をピークとする実例建築物の偏重はひとまず落ち着き、今後は努力が実りやすい出題になるのではないかと思います。
- ・新規問題対策は、講義と教材の中で行う対策に絞っていきましょう。

- ・初めて見る建築物名であっても、「記述内容は他の建築物の特徴ではないか？」と応用を効かせることも大事です。

② 構造の文章問題について

- ・問題集を実施する際に、設問の内容をきちんとイメージできているか、**簡単なイラスト**を描けるか、を常に意識して解く。
- ・具体的には次の問題について、図のように簡単なイラストを描けるか、です。

問題「鉄骨構造において、床面の水平せん断力を伝達するために、小梁と水平ブレースによりトラス構造を形成する場合、小梁は軸方向力も受ける部材として検討する必要がある。」(令和元年 No. 15 肢 1) (正)



③ 施工について

- ・施工の得点アップのためには、「施工方法がイメージできること」「数値等を暗記すること」が大事です。受験経験者の方が講義前に学習を進める際には、設問の中でイメージできない用語にマーカーをして徹底的に調べ上げてください。今まで使っていたテキスト、問題集のほか、ネットで調べるのも有効です。

19. 講義受講中の注意点

- ・ひたすらマーカー、アンダーラインを引き、メモを取る。
- ・講義中の疑問点には？マークやフセンを立て、復習や質問がしやすいようにする。また、疑問点が解決した後すぐに？マークを消さずに「~~?~~」のように履歴を残す。一度疑問に思ったものは再び疑問に思うもの。これも復習しやすさの一つの工夫。
- ・講義中の疑問点を、講義が進んでいるのにずっと考え込んでいてはダメ！ 「？」マークを付けて確認は後にして講義に集中すること。

以上